

一般社団法人公認心理師の会®

主要5分野 専門研修会

後援 厚生労働省・文部科学省

日時 2020年5月31日(日)

場所 東京大学駒場キャンパス21KOMCEE EAST

科学者－実践家モデルに基づく
公認心理師の新しい時代を拓く

時間	分野	ワークショップ タイトル	講師	所属
午前 9:00- 12:00	教育	エビデンスにもとづいた発達支援・教育支援	山本 淳一	慶應義塾大学
	産業	産業の人材開発と組織改革における心理学的支援	奈良 元壽	帝京平成大学
午後 12:30- 15:30	医療	医療で働く公認心理師のエッセンシャルスキルズ -医療現場における基本的振る舞いと作法	澤田 梢	広島県立障害者リハビリテーションセンター
	福祉	知的障害のある人のメンタルヘルスと心理的支援	庵地 雄太	国立循環器病研究センター
夕方 16:00- 19:00	司法	精神鑑定に求められる公認心理師の役割	下山 真衣	信州大学
	倫理 職責	臨床現場におけるエビデンスに基づいた実践の方法論	岩佐 和典	就実大学
			西中 宏吏	千葉大学
			椎名 明大	千葉大学
			柳澤 博紀	犬山病院
			瀬口 篤史	犬山病院

前日30日(土)に年次総会を開催。こちらにもご参加ください

研修会・年次総会ともに事前予約が必要です ホームページより申し込み
【研修会 参加費】1ワークショップにつき 会員4,000円 非会員6,000円
どなたでも参加いただけます 公認心理師以外の方も歓迎

参加登録
お問い合わせ

一般社団法人 公認心理師の会 事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷5-23-13 田村ビル
公益社団法人日本心理学会事務局内
ホームページ <https://cpp-network.com/index.html>



●WS 1 「エビデンスにもとづいた発達支援・教育支援」 山本 淳一（慶應義塾大学）

2010年以降、発達支援プログラムの効果に関するエビデンスが着々と蓄積されてきた。例えば、支援の場として日常環境を設定し、行動科学と発達科学の最先端の知見を融合した「日常環境発達行動支援法（Naturalistic Developmental Behavioral Intervention: NDBI）」の効果などが実証されている。また、発達障害支援に関しても、「限局性学習症」「自閉スペクトラム症」「注意欠如・多動症」への発達支援・教育支援プログラムの効果が示されている。本ワークショップでは、「エビデンスに基づいた実践（evidence-based practice）」を実現する上で必要な、先端的な発達支援方法、各発達障害に対応した支援プログラムを概観する。また、子どもたちひとりひとりに効果的な発達支援を提供するためには、「環境と個人との相互作用」に焦点を当て、支援方法を適合化する必要がある。この点から、支援プログラムを、発達支援・教育支援の「文脈（context）」に適合させ、実践現場で活用するための技法とアセスメント方法を紹介する。スタッフ支援、ペアレントトレーニング、遠隔地支援（telehealth）、認知行動療法との融合、発達移行期に焦点をあてた包括的支援、行動問題の機能分析、ポジティブ行動支援などの実践と事例を具体的に提示しながら、ワークショップを進める。

●WS 2 「産業の人材開発と組織改革における心理学的支援」 奈良 元壽（帝京平成大学）

現在公認心理師の産業領域業務の多くは、①メンタル不調者の心理学的支援、予防、②ストレスに関連するカウンセリング、研修、組織支援、③キャリアや問題解決型のカウンセリングであろう。一方海外では、健常者の能力開発を目指す人材開発の分野で、クリニカルを含むサイコロジストがコーチングなどで活躍するケースが増加している。本ワークショップではまず、企業が近年重視する「個人を対象とした人材開発」の概要を説明し、公認心理師として携わる可能性のある業務内容を解説する。その中でも重要と思われるコーチングについてケース検討も含め理解を進める。臨床で馴染みのあるケースフォーミュレーション、認知行動療法的支援なども応用する。次に、公認心理師が今後活躍を期待される、「組織全体を対象とした組織改革」の分野を概観する。組織改革には経営戦略を始め複雑な要素が関連しているが、心理職が関わる事のできる業務を整理し、ワークも体験しながら理解を進める。

●WS 3 「医療で働く公認心理師のエッセンシャルスキルズ-医療現場における基本的振る舞いと作法」

澤田 梢（広島県立障害者リハビリテーションセンター） 庵地 雄太（国立循環器病研究センター）

身体疾患にかかわる医療領域で働く公認心理師は、身体疾患についての基礎的な知識を習得することが必要であるだけでなく、医療の中で用いられる基本的な用語、医療制度や診療報酬などに基づいた病院運営、医療における接遇マナーや医療独特の文化など、医療現場での「共通言語」を身につけていく必要がある。また、公認心理師として多職種と円滑な協働を実現するためには、チームの中でどのように立ち振る舞うかという視点も重要である。しかしながら、これらの医療の基礎知識や基本的な振る舞いに関して、十分に学べる環境は整っていないわけではない。そこで、本ワークショップでは、実際に身体疾患にかかわる医療現場で働く2名の講師からの話題提供を通し、医療の基礎知識を確認し、医療現場で働く際のポイントや留意点を整理したい。

●WS 4 「知的障害のある人のメンタルヘルスと心理的支援」 下山 真衣（信州大学） 岩佐 和典（就実大学）

知的障害のある人のメンタルヘルス不調の有病率は約20%で、一般の人に比べて高い割合で起きています。また、知的障害のある子どものメンタルヘルス不調の発症は、知的障害のない子どもに比べて4倍も高い状況にあります。従来では知的障害のある人へのカウンセリングや心理療法は適切でないと考えられることもありましたが、近年ではイギリス、オーストラリア、アメリカを中心に知的障害のある人への心理的支援（カウンセリング、認知行動療法、力動的心理療法など）が広まってきています。しかし、国内で知的障害のある人のメンタルヘルス不調や心理的支援に関する研修を心理師が受ける機会はほとんどない状態です。そこで本ワークショップでは、知的障害のある人のメンタルヘルスの理解を深め、事例をもとに心理的支援を検討する機会を提供します。ワークショップでは、知的障害のある人のメンタルヘルス、アセスメント、心理的支援の実際について扱います。

●WS 5 「精神鑑定に求められる公認心理師の役割」 西中 宏史（千葉大学） 椎名 明大（千葉大学）

法律家や裁判員が法律判断をする際に、必要な知識や経験が足りないことがある。これを補う目的で行われるのが鑑定であり、精神医学的な専門分野の知識と経験が必要で精神科医にその補充を求める場合を特に精神鑑定という。精神鑑定では鑑定人である精神科医により依頼を受け、心理学の専門家が助手としてかかわることが少なくない。公認心理師制度の開始により、精神鑑定における心理学の専門家に求められる役割と責任はますます大きくなることが予想される。しかし、心理学の専門課程において精神鑑定に関する教育がなされることは想定されていないばかりか、心理学の専門家向けの講習・研修の機会も希少である。本ワークショップでは、精神科医と公認心理師の2名の講師による講義や演習を通して、精神鑑定の目的や方法を解説するとともに、心理検査バッテリーを組む際のポイントについて学ぶ。また、心理検査以外に鑑定人が心理学の専門家に求める事項について整理を行う。

●WS 6 「臨床現場におけるエビデンスに基づいた実践の方法論」

柳澤 博紀（犬山病院） 瀬口 篤史（犬山病院）

心理学におけるエビデンスに基づく実践（EBPP）とは、大規模研究で得られたエビデンスの知見を日常臨床にそのまま適用することではありません。患者の特徴、文化および希望という枠組みのなかで得られる最新最善の研究エビデンスと臨床上の判断を統合させたもの（米国心理学会、2006）です。そのため臨床実践家には、目の前の対象者の状態や特性に合わせた柔軟な対応が求められます。私達は対象者に合わせた柔軟性の高い実践を行うために、できる限り客観的な行動を継続測定する重要性を提案しています（柳澤ら、2016など）。行動を継続的に測定することで、本当に「心理介入が必要なのか判断ができ、実施した介入の効果の有無を評価することができ、また介入の終了地点について妥当な判断をすることができるようになります。本ワークショップでは、実践事例の紹介、行動測定の基礎、心理面接から行動測定につなげる技術などを、講義及び演習を通じて理解を深めます。